

令和 2 年 10 月 27 日
海事局 海洋・環境政策課**船舶の新たな CO₂ 削減策、日本主導により国際ルール化へ**

～IMO 第 7 回温室効果ガス作業部会（10/19-23） 開催結果～

国際海事機関（IMO）は、海運分野の気候変動対策を審議するための国際会議を Web 形式にて開催しました。審議の結果、日本主導で 18 か国と共同提案した新たな CO₂ 削減策が支持を集め、その実施のための国際ルール案に合意しました。

本国際ルール案は、今後、IMO 海洋環境保護委員会における審議（本年 11 月及び来春）を経て、2023 年初めには発効し、世界の大型外航船に適用される予定です。

【背景】

- 海運分野の気候変動対策を検討する IMO は、2030 年までに国際海運からの CO₂ を 40% 以上削減（輸送量あたり、2008 年比）するための新たな対策を審議すべく、10 月 19 日（月）～23 日（金）に、第 7 回温室効果ガス作業部会を Web 形式にて開催しました。同会議には、70 カ国から 300 名以上の政府代表等^{※1}が参加しました。

※1 日本からは国土交通省海事局海洋・環境政策課 中川環境渉外室長・岩城環境政策推進官等が出席。

- 日本は、欧州、中東、アジア等各地域の 18 カ国・1 団体^{※2}と共同で「現存船に新造船と同レベルの燃費性能を義務付ける新たな規制（EEXI）及び燃費実績の格付け制度」を提案していました。本制度により、2030 年に 40% 超の CO₂ 削減が見込まれます。

※2 日本、韓国、中国、シンガポール、マレーシア、インド、イタリア、キプロス、クロアチア、スペイン、デンマーク、ドイツ、フランス、ノルウェー、UAE、ガーナ、ナイジェリア、カナダ、パハマ、国際海運会議所

【審議結果】

（※詳細は別紙 1 参照）

- 今般の国際会議では、上記日本主導の共同提案に支持が集まり、所要の修正の上、その実施のための国際ルール案に合意しました。主な内容は以下の通りです。

現存船への燃費性能規制（EEXI）	現存船に対して新造船と概ね同レベルの燃費性能を義務化し、予め、主管庁が検査して証書を発給。
燃費実績の格付け制度	1 年間の燃費実績を A-E の 5 段階で格付け評価。低評価時は改善計画を策定。

また、本国際ルールを実施した際の開発途上国・島嶼国等への影響評価について、総合的な検討を進めることに併せて合意しました。

（※詳細は別紙 2 参照）

【今後の予定】

- 本国際ルール案は、11 月 16 日（月）～20 日（金）まで開催される第 75 回海洋環境保護委員会（議長：斎藤英明 国土交通省大臣官房技術審議官）で、海洋汚染防止条約（MARPOL 条約）附属書 VI 改正案として、正式承認のための審議が行われます。その後、2021 年春開催予定の第 76 回海洋環境保護委員会での採択を経て、2023 年初めには発効し、世界の大型外航船に適用される予定です。

【問い合わせ先】海事局海洋・環境政策課 中川、岩城、井島
電話：03-5253-8111（内線 43921、43923）
直通：03-5253-8118 FAX：03-5253-1644